

岩手 MTDLP 推進通信

N05 2018.3.31

第13回事例検討会報告

MTDLP 推進特設委員会 委員長 田中弘美
tanaka@rehab.iwate-saiseiikai.jp

平成30年3月4日（日）13:00～16:30 都南文化会館

発表 5名 聴講 8名 MTDLP委員 6名 計19名



29年度最後の事例検討会でした。会長、副会長、支部長他ベテランOTにもご参加いただき、盛會に終えることができました。

<発表タイトル>

- ①「元の生活に戻りたい！」歩行・入浴動作獲得を希望した症例へ、安全な独居生活へ向けた支援～MTDLPを用いたことで課題を視覚化し、自分自身をマネジメントできた事例～
- ②自宅退院後の生活目標を見据え、病棟内歩行・ADL動作を獲得した事例
- ③MTDLPを活用し自立した生活に向けて他職種と協働した事例
- ④排尿の失敗軽減をきっかけに活動性が向上した事例
- ⑤自宅外出訓練の実施によりIADL動作の向上に繋がった事例MTDLPを使用し多職種連携を通して、自宅復帰及びB型利用再開に至った事例

<受講会員の感想>

- ・利用者の気持ちに寄り添って具体的な目標を設定し介入している発表を聴きOTの原点を改めて振り返る機会を頂きました。
- ・事例を出していただいた療法士さんたちにお疲れ様を言いたいです。今後のご活躍をご期待いたします。
- ・皆が集まってひとつのことに話し合いをもつ。さらに他施設の職員から意見が聞ける場、必要な会です。ぜひ今後も継続をお願いしたいと思います。
- ・同職の方とディスカッションする機会をなかなか持てないので今回のこの機会はとても勉強になりました。
- ・グループ討議の中で様々な領域の方からご意見をいただいたことをさっそく明日からの介入に活かしていきたいと考えました。

<推進委員長から>

平成29年度事業も無事終了いたしました。ご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。MTDLPプロジェクトも29年度で終了いたします。平成30年度は新しい位置づけのスタートの年となります。振り返れば平成25年から5年間、全国の推進の勢いに遅れてはいけないという思いで取り組んでまいりました。

“「したい！」を「できる！」”は岩手県作業療法士会MTDLP推進のキャッチコピーです。MTDLPを実践する要点は、その方のどのような「したい」をどう実現できたのかに尽きると思いますが、リハビリテーション評価の焦点は「できない」ことの分析に偏りがちですが、「なぜしたいのか」「なぜしたくないのか」ご本人の情意面も含めた評価がより重要であることを感じています。“その人の想い”を汲みとる…表現としてあいまいで主観的でも、個人因子としての情報収集や、高次脳機能としての情動・感情の観点からの分析も作業療法ならではの評価の視点で表していけたらと思います。MTDLP推進を通して、作業療法の焦点はなにか？いろいろ勉強することの多い5年間でした。

これからもMTDLPをよろしく願いいたします。

「したい」を「できる」に!
生活行為向上マネジメント

岩手県作業療法士会

今後の研修会予定

■事例検討会

平成30年度も事例検討会の開催を計画しております。盛岡地区を中心に開催する予定です。また、事例登録の書き方研修会なども企画中です。詳細は総会承認後お知らせいたします。

お知らせ

■協会：
「MTDLP事例報告書作成の手引き2.0版」HPにてDR可

■士会
協会発行のMTDLPパンフレットあります。外部への説明など必要な方はお問い合わせ下さい
MTDLP推進特設委員会田中弘美
tanaka@rehab.iwate-saiseiikai.jp

報告

<県 MTDLP 事例検討会アンケートまとめ9回～13回>

回答数 39名 (97.5%)

理解：理解できた 33/39

活用の有無：半々

今後「活用していきたい」35/39

活用を阻害要因（複数回答）

経験や理解不足 14/57

現在の業務では困難 11/57

マネジメント部分が難しい
10/57

MTDLP普及活動：

やりたい 19/39

やれない無回答 18/39

MTDLP事例登録：

目指したい 11/39

事例発表したい 7/39

県 MTDLP 研修修了者数

基礎研修修了 387名

実践研修修了 84名 指導者 2名